ルーダス＝コヴェントリー・サイクル劇（XXII）

第三十二番演目　されこうべの丘への道行き

橋本侃

〔涙を流す二人の女たちが登場し、悲しみに手を絞りながら言う。〕

（1）

女一　ああ、イエス様、ああ、イエス様！　悲しいことに、　写本左百七十九頁
このように身包みはがされてしまった――
罪の一つも見つからなかったというのに！
でも、あなたは神様からずうっと愛されたおバカさんだったんだ！　680

（2）

女二　ああ、あんなに善い人だったイエス様の痛ましいお姿がここに――
理不尽にも、こんな死に方をしなくちゃならないとは！

ああ、悪辣な者たち、気が触れたからやった、などと言うつもりか、
あんなにも善い主にこんな大きな恥辱を与えるなんて！
〔ここで、十字架を背負ったままのイエスは女たちに向かって言う。〕

（3）

イエス　エルサレムの女たちよ、わたしのためではなく、
自分と、自分の子供たちのために涙を流しなさい。
なぜなら、その時に向かってずっと生きてきた日が必ず来る――
それまでに犯した罪と、物が見えなかったせいで苦しむことになる日が。

（4）

その時、お前は言われる、「子を産めぬ腹は幸せだが、
そのような日々に、乳を吸わせている乳房は災いだ」と。
そして、父親たちは言われる、「わたしをもうけた時が災いだった」、
そして、母親たちは、「ああ、悲しいことだ、これからはどこが住みかか？」と。

（5）

その時、人々は丘と山に向かって大きな声で呼びかける、
「開いてわたしたちを隠してくれ、玉座におられる方に姿が見えないように。
さもなければ、われらを覆いかぶし、われらの上に崩れ落ちてくれ。

685　690　695

それで、やっと悲嘆から隠れおおせることができる。」
〔ここで、イエスは女たちから顔をそむけ、前に進む。すると、イエスと女たちはシモンに出くわす。ユダヤ人たちがシモンに声をかける。〕

（6）

ユダヤ人一　そこのあなた、あなたに好い知らせを一つ差し上げよう。
ご覧ですね、男が一人
十字架を重く運んでいます――
自分がその上に吊るされることになっているというのに。

（7）

そこで、あなたにお願いだ、
あの男の十字架に手を貸して、
されこうべの丘まで、わたしたちと一緒に運んでくれないか？
そうしてくれたら、あなたに大いに感謝したい。

（8）

シモン　とんでもありません、みなさん、わたしにはできません――
しなくてはならない大切な用事があるのです。
だから、お願いです、勘弁してください、

百八十（T帖）

700

705

わたしをこのまま使いにやらせてください。

(9)

ユダヤ人二　なんだと、われらをさげすむのか、そんなことはできない、だと！
その木を運んでくれるように、こうしてお願いしているというのに！
それとも、はっきりと言いきるつもりか、「運ぶのに、
道のりがこの十倍もあったら引き受ける」などと？

(10)

シモン　お願いです、みなさん、どうか不快に思わないでください。
その木を運ぶお手伝いをしますから、
運ばなくてはならない場所まで。
どこまで運んだらいいのか命じてください。

〔ここで、シモンはイエスの十字架を手に取ると、運び始める。〕

(11)

ヴェロニカ　ああ、罪深い人たち、なぜこんなことをしているのですか？
汗と血のせいで、あの方には物が見えません。
ああ、悲しいことに、聖なる預言者、キリスト＝イエス様！

〔イエスの顔をハンカチで拭う。〕

710　715　720

本当にあなたのことが心配でなりません。

（12）

イエス　ヴェロニカ、あなたが泣いてくれたおかげで気が楽になった。
前には真っ黒に見えたわたしの顔がきれいになった。
すべての苦しみから遠ざけてあげることにしよう、
あなたのハンカチを見て、わたしのことを思い出す人たちを。

「磔刑」

〔ここで、ユダヤ人たちはイエスから衣服をはぎ取り、ひとまとめにしてから、イエスを引き倒し、十字架の上に寝かせた後で、釘付けにする。〕　左百八十

（1）

ユダヤ人一　さあて、ここいらで、ためしてみよう、
この十字架が奴の背丈にぴったり合うかどうか。
奴をここへ格好良く寝かせろ――
いつまでも奴を突っ立ったままにさせておくつもりだ！

725

（2）

ユダヤ人二　奴が気分を悪くしても構わぬ、引きずり倒して、
早く、奴の腕をこっちへよこせ。
そうしてくれれば、直ぐに俺たちにも判るだろう、
奴の古き良き時代は終わりになった、ということが。

（3）

ユダヤ人三　もう片方の腕を俺によこせ。
奴の両足の位置に気をつけろ。
そうしてくれれば、直ぐに判るだろう、
奴のために空けておいた穴がぴったりかどうか。

（4）

ユダヤ人四　ぴったりだ――充分に気をつけろ。
そっちの腕を引き出せ、痛くてもいいから！

ユダヤ人一　こんちくしょうめ、こっちへは届かない！
もっとでかい足ならぴったり合ったのに！

（5）

ユダヤ人二　奴を綱の先にしっかり結んで、引っ張って伸ばしてみよう。

740　735　730

もう一度、お前を引っ張り上げてやるぞ！
この綱は強い綱だから大事を取らなくてもいい、
奴の肉と血管の両方を引き千切っても構わない。

（6）

ユダヤ人三　直ぐに釘を打ち込め！　ああ、ちっと待て、
奴の肉という肉が持ちこたえられかどうか、よく見ていろよ。
ユダヤ人四　よし、いいぞ、そのくらいで許してやる――
見ろ、この釘を、丁度いい所に打ち込んだ、びくともしねえ。

（7）

ユダヤ人一　そんなら次は、奴の両足に綱をしっかり結べ。
そうしたら、引っ張るにいいだけ引っ張れ！
ユダヤ人二　ここに長さといい、太さといい、ちょうどの釘がある。
はっきり言っておく、これを見事に刺し通してやる！
〔ここで、ユダヤ人たちは仕事をいったん止め、十字架の回りをしばらくの間、踊り回る。〕

（8）

ユダヤ人三　見ろや、ここにいるのがお光りさんだ。このお光りさんを木に吊すぞ。
ユダヤ人四　そのとおりだ、あんたがりっぱな王様だと信じるね。

745　百八十一（750）　755

ユダヤ人一　りっぱな旦那、俺に教えてくれや、あんたの予言はあんたの役に立つのか？

ユダヤ人二　そのとおり、あるいは、間違ったお説教の一つでもあんたの役に立つのか？

（9）

ユダヤ人三　さあ、みんな、十字架を持て、おっ立てるぞ。
そうしたら、奴の顔がまともにおがめる。

ユダヤ人四　そのとおりだ。とても親切な王様に向かってひざまずき、
その偉大な恩恵を祈り求めよう。

〔ここで、十字架を立て終わると、その前で、四人は互いに次のように言い合う。〕

（10）

ユダヤ人一　もし、あんたがユダヤ人の王なら、万歳、だ！

ユダヤ人二　そうだ、そうだ、旦那は肉も骨も丸ごと木に吊るされているんだ！

ユダヤ人三　さあ、その木の上から降りてこい！

ユダヤ人四　そしたら、あんたを直ぐに拝んでやるぞ。

〔ここで、貧しい平民たちが登場し、ユダヤ人四、あるいは、ユダヤ人五を見る。すると、ユダヤ人たちは平民たちの所へ来ると、泥棒たちを吊るさせる。〕

（11）

ユダヤ人一　お前ら悪ガキめ、こっちへ来て、この二本の十字架をおっ立て、

こいつら泥棒二人を直ぐに吊るせ。

ユダヤ人二　そうしよう、このりっぱな騎士さんを礼拝するために、　左百八十一
奴の両側に吊るせ。

〔ここで、身分の卑しい人々が二本の十字架を立て、泥棒たちを両腕の所で縛って吊るす。その間に、ユダヤ人たちはイエスの衣服を賭けてサイコロ賭博を始め、小競り合いをする。一方の舞台から、聖母マリアが三人のマリアを引きつれて登場し、十字架の脇に座るヨハネの姿を認める。マリアは気を失いつつ、嘆き悲しみながら、言葉をゆっくりと口にする。〕

(12)

マリア　ああ、わたしの善い主、わたしの可愛い息子よ！
お前はなにをしたの？　なぜ、ここにこうして吊るされているの？
お前にとってふさわしい死に方がもっと他にもあるでしょうに――
泥棒と一緒の、このようなもっとも恥ずかしい死に方よりも他の死に方が？

(13)

ああ、なんという心臓なの、お前はなぜ裂けてしまわないの？
乙女で母親でもあるお前は、子供をこのように殺された、と口にするだけなの？
お前はこの悲しみと、この痛ましい考えにどうしたら堪えられるの？
ああ、死よ、死よ、死よ、なぜわたしを殺すつもりがないの？

〔ここで、聖母マリアは再び気を失う。われらの主が語る。〕

(14)

イエス　おお、全能の父よ、人間を造られた方、
わたしを苦しませるユダヤ人たちをお許しください。
父よ、かれらを許してください、そしてまた、かれらを許してください、
なぜなら、ユダヤ人たちは何を自分たちがしているのか判らないからです。

(15)

ユダヤ人一　おやおや、なんと、なんと、奴はこんな所にいたぞ！
過日、寺院を打ち壊すようにわれらに命じ、
三日のうちに、
上等の衣服を身に着け、再び立ち上がる、と言った奴が！

(16)

ユダヤ人二　そんな事がしでかせるなら、今こそ、やってみろ――
できるなら、自分自身を救ってみろ！
そうしたら、お前のことを必ず信じて、
お前が力ある男だと言おう。

ユダヤ人三　そのとおりだ、お前が教え広めていたとおり、お前が神の子ならば、

十字架から今すぐ降りて来い！
そうしたら、お前に慈愛を求め、
お前が有名な主であると言おう。

（17）

泥棒ゲスマス　自分で言ったとおりの神の子なら、
自分と俺たちをたった今、救え！
だが、すっかり信じているわけじゃないぞ、
イエスよ、お前が神の子キリストである、とは。

（18）

泥棒ディスマス　黙れ、バカ者、なぜそんなことを言うのか？
あの人は神のみ子だ、そうに違いない。
それにいいか、あの人は罪一つ犯してない――
それなのに、こんな死にざまになろうとは！

（19）

ところが、俺たちの方は悪さを散々と重ねてきた。
あの人は間違ったことは一つもしていない。
善き主よ、憐れみ給え、憐れみ給え！　そして、どうか俺のことを忘れないでくれ、

800　795

主よ、あなたの王国とあなたの至福に至る時には！

(20)

イエス　アーメン、アーメン！　あなたにはとても分別がある、
そのように願い求めるとは。その願いを認めてあげよう――
今日、天国にいる、
あなたの神であるわたしと一緒にそこにいる。

(21)

マリア　おお、わたしの息子、わたしの息子、わたしのいとおしい子よ、
お前を怒らせるようなことをわたしがしたの？
ここにいるすべての人には口を利いたのに
わたしに向かっては一言も言ってはくれていない。

(22)

ユダヤ人たちに向かってはとても親切ですね。
その犯したすべての悪行を許し、
そちらの泥棒のことも心に留めた――
慈愛を求めたのが一度だけなのに、天国があの人に報われたのですから！

(23)

ああ、わたしを支配しておられる主よ、口を利いてくれないのはなぜですか、
お前の間違いに苦しむ母親であるわたしに向かって？
ああ、心臓よ、心臓、なぜ裂けてしまわないの、
ひどい悲しみはなくなってしまったというの？

(24)

イエス　ああ、婦人よ、婦人よ、見なさい、そこにいるのがあなたの息子だ。
そして、ヨハネ、あの婦人を自分の母親とするのだ。
できるだけ心を込めて世話をするように命じる。
清らかな乙女のあなたは、もう一人の乙女の世話をしなさい。

(25)

そして、婦人よ、天上のわたしの父がわたしをこの世に遣わしたのは知ってのとおりだ。
あなたと同じ人間の形を取り、アダムが犯した罪の贖いをしたのだ。
なぜなら、これがわたしの父のみ旨でご意思だ、
このようにしてわたしが死ぬのは、悪魔から霊魂を奪われた人間を救うためだ。

(26)

さてこそ、それがわたしの父のみ旨であるので、そのようにあらねばならない。
だが、わたしの死がひどいものでも、母を不快にさせていいものか！

人間のためにこれらすべてに堪えるようにと、あなたから生まれたのです、
人間が失っていた喜悦へ、人間を再び立ち帰らせるために。
〔ここで聖母マリアは立ち上がり、小走りに十字架の所へゆき、十字架を抱きしめる。〕

(27)

マグダラのマリア　ああ、善き婦人よ、なぜこんなことをなさるのですか？　百八十三
悲しみに溢れるお顔を見ると、わたしどもはとても悲しくなります。
そして、わたしの優しい主イエスが抱えられている苦痛を、
あなたも抱えておられるのをご覧になると、それだけ余計にイエス様は苦しむのです。

(28)

乙女マリア　皆さんにお願いします、このまま、わたしをここにいさせておくれ、
そして、この木の上にわたしを吊るしておくれ。
わたしにとっていとおしい友と息子の傍らに——
あの子があそこにいるのですから、わたしもあそこにいたい！

(29)

ヨハネ　心優しい婦人よ、嘆くのは今すぐお止めください。
わたしたちと一緒に帰るように、皆でお願いします。
そして、旅立たれるわれらの主を慰めましょう——

ご自分の道を行かれる用意がもうほとんど整っていらっしゃるのだから。
〔ここで、人々は聖母マリアを十字架から引き離す。するとここで、ピラトが出場所から降り、カヤパとアンナスと家来たちを引き連れ、キリストを見に来る。アンナスとカヤパはあざ笑いながら言う。〕

(30)

カヤパ　ご覧なさい、みなさん、とくとご覧ください！
ここに吊るされているのは多くの人を救った奴です。
もし奴が神の子ならば、
そして、奴にできるなら、今こそ自分自身を救わなくては！

(31)

アンナス　そのとおり、もしお前がイスラエルの王なら、
十字架から降りてきて、わしらすべての中に加わるといい。
そして、今が今、お前の神に救ってもらえ。
そうしたら、お前をわれらの王だと呼んでやろう。
〔ここで、ピラトはペンとインクを持ってくるように命じ、渡された木片にラテン語で記す、「コレガなざれノいえす、ゆだや人ノ王」と〕。　左百八十三
〔カヤパに書き取らせ、梯子を登らせ、捨札をキリストの頭の上に据えさせる。するとカ

ヤパはピラトに読ませて、言う。〕

(32)

カヤパ　ピラト閣下、これには驚きましたな、
奴が「ユダヤ人の王」であると書かれましたな。
それより、次のように書いていただきたいですね――
「奴はユダヤ人の王であると自称した」と。

ピラト　わしが書いたとおりに書かれている。
それゆえ、わしのためを思うなら、しかと、そのままにしておくように。

〔このようにして、皆が出場所へ戻ると、イエスが叫ぶ。〕

(33)

イエス　ヘロイ、ヘロイ、ラマヤバサニ。
高い天におられるわたしの父よ、
なぜわたしをお見捨てになるのですか?
人間としてのわたしにもろさがあるので、
強い痛みが体を刺し貫き始めました。
ああ、いとおしい父よ、わたしを心に掛け、
死ぬことで、わたしの悲しみを終わりにさせてください。

855　860　865

（34）

ユダヤ人二　わたしには、エリヤをあのようにして呼んでいるように思えます。
もっとそばへ近づいて、よく見ていよう、
エリヤが気づかぬうちに来るのかどうか気をつけていよう、
イエスを十字架から引き降ろしに。

イエス　これほどまでに喉の渇きを覚えた人はいなかった、
人間よ、お前のために、わたしが今、渇いているようには。
渇きのせいで、わたしの唇はひび割れた。
乾き果てて裂けてしまった。

（35）

ユダヤ人三　このど阿呆め、あんたの喉の渇きを和らげるために、
ここにある酢と胆汁をやろう。
なんと、しかめっ面をしたように見えたが――
この飲み物はうまくないか？
あんまり急いで飲み物をくれと叫んだが、
今が今、むだな叫びだったようだ。
この飲み物はいい味がしないか？

880　875　870

今直ぐに、どう思うか俺に言え。

(36)

ユダヤ人四　間抜けの旦那、今は随分と高い所におられますなあ！
あんたを一人っきりにしておくつもりはありません。
新しいしきたりに従ってあなたに声を掛け、
あなたに向けて、しかめっ面をしましょう。

ユダヤ人一　あんたをあざ笑いながらお迎えしましょう、
朝も夜もあんたに向かってお祈りをしましょう。
われらの作った穀物には充分に気をつけて、
鴉を追い立てましょう。

(37)

イエス　主ヨ、ミ手ニ！
天の玉座におられる聖なる父よ、
わたしの霊魂をあなたに託します。
なぜなら、今やここに、わたしの宴は終わります。
行って、あの悪魔の奴を殺しましょう、
なぜなら、今や、わたしの心臓は壊れ始めました。

885　890　895

もうこれ以上の言葉をわたしは喋らない――
今ココニ、成シ遂ゲラレタ。

（38）

マリア　ああ、ああ、悲しいことに、わたしはあまりに長く生き過ぎた、
わたしのかわいい息子が強い痛みを抱えているのを見るなんて！
泥棒として十字架上に吊るされたが、
一度として罪は犯していない。
悲しいことに、わたしのいとおしい子は死ぬ覚悟ができていた。
今やわたしの心配は更に増えた。
ああ、わたしの心臓は痛みに押しつぶされた。
悲しみのせいで、わたしの心臓は二つに裂けた。

（39）

ヨハネ　ああ、恵まれた乙女よ、考えをお変えください。
なぜなら、ご子息は悲しみに堪えているが、
この仕事はあの方ご自身の意思によってなされたからです、
しかも、自ら進んで死を受け入れるために。
また、あなたの世話をするように、この場でわたしに命じられたのです。

910　905　900

わたしのいとおしい婦人よ、わたしはあなたの召使です。
それゆえ、お願いですから、元気を出して、
陽気になってください。

(40)

マリア　あの子はわたしから生まれたのではないけれど、
あの子の肉はみんなこのように裂けてしまったとわたしは言おう。
後ろの背中の肉も、前の胸の肉も、
引き裂かれて、大きな傷跡が残った。
わたしは苦悩のうちに身を置かなくてはならない、
わたしの友が大勢の敵といるのを見るのは。
頭の天辺から足の先まですべて引き裂かれ、
肉には、皮膚がついていない。

(41)

ヨハネ　ああ、恵まれた婦人よ、申しあげますが、
あの方が死ななければ、わたしたちは地獄へ行くはずだったのです。
永遠に地獄にとどまるのです、
苦痛にさいなまれる悪魔たちと。

左百八十四

あの方はわたしたちが犯した罪のせいで死をこうむられました。
あの方が死んだおかげで、神の恵みを得るのです、
天の地にあの方と一緒に留まる恵みを。
それゆえ、心楽しくしてください。

（42）

マリア　ああ、いとおしい友よ、よく分かりました、
わたしたちを贖って神の喜悦へ向かわせる、ということが。
しかし、わたしはもう今まで以上の喜びを逃してしまった、
この有り様を目にした時に。

ヨハネ　さあ、いとおしい婦人よ、それゆえ、あなたに願います、
この悲しみから離れる道を取りましょう。
なぜなら、このような有り様を見ることがない時には、
あなたの心配も今よりもっと軽いものになるかもしれません。

（43）

マリア　さあ、あの子から別れなくてはならない。
それでも、行く前に接吻させておくれ、
苦しみを受けた、あの子の恵まれた両足を、

940　935　930

この木の上に釘付けにされた両足を。
残虐にも、大きな侮辱を受けて、
いままでに誰もこのような惨めな有り様を覚悟した人間はいない。
それゆえ、わたしの心臓は苦しみに追い込まれ、
すべての喜びがわたしから離れ去ってしまった。
〔ココデ、マルデ種播ク人ノヨウニ、身ヲ大地ニ投ゲ出スト、よはねガ言ウ。〕

(44)

ヨハネ　さあ、恵まれた乙女よ、わたしと一緒にゆきましょう。
この有り様をもうこれ以上長くは見ないことです。
この国を案内しましょう、
一番気に入った場所にお連れしましょう。

マリア　さあ、わたしの息子が気に入っていた、優しいヨハネ、
神の寺院へわたしを連れていっておくれ。
そうしたら、神に祈ることができるでしょう、ひどく泣きながら、
そして、嘆き悲しみながら――用意はできています。

(45)

ヨハネ　あなたがお望みのことをすべてしてください。

心を込めて、あなたの考えていることを致しましょう。
さあ、恵まれた乙女よ、ぐずぐずしないで、
寺院に入りましょう。
聖なる祈りを捧げれば、あなたの気分は変わり、
機嫌もずっといいものとなりましょう。
ご子息が流す血を見なければ、
それだけあなたの心配も少ないものになりましょう。
〔ソレカラ、まりあハよはねト寺院ヘ移行スル。〕

（46）

マリア　この寺院でわたしは生涯を送り、
心からの畏怖の念を持って、わたしの主である神に仕えます。
今や、泣くことがわたしの糧となりましょう、
神がいくらかの慰めを送ってくれるまでは。
ああ、わたしの主である神よ、あなたに向かって祈ります、
わたしの子が三日目に立ち上がる時、
その時にはあなたの端女（はしため）を慰め、
わたしの心労を癒してください！

970　965　960

第三十三番演目　地獄への降下

（1）

キリストの霊魂　今や、すべての人は心から喜んでいる、
得ることのできるすべての喜びで。
なぜなら、それまでは地獄の獄舎に捨て置かれていた
人間の魂を
今や、わたしが苦痛から立ち上がらせ、再び生きさせるからだ、
まぎれもない天国がある所へ。
それゆえ、人間よ、心から喜びなさい、
今や、喜悦のなかに留まるのだ。

（2）

わたしはキリストの霊魂で、
すべての徳の王である。
わたしの体は死んだ――ユダヤ人が殺し、
十字架上に吊るした。

左百八十五(975)

980

引き裂かれ、体のいたる所が血だらけになった。
人間のためにわたしの体は死んだ。
わたしの体は人間を救うためのパンで、
わたしの体の血は魂の飲み物である。

（3）

わたしの体は殺されたが、
これは確かなことだ――三日目に
わたしの体を再び立ち上がらせ、
あなたたちに言ってきたとおりに、生き返らせる。
さて、わたしはこれから真っ直ぐに地獄へゆくつもりだ。
そして、地獄に留まるすべてのわたしの友を
大勢の悪魔の手から奪い取り、
永遠に続く喜悦に向かって引き連れ上る。〔キリストの霊魂は地獄の門へゆき、言う。
「大門ヨ、扉ヲ開ケ、永遠ノ戸よ上がれ、栄光ノ王ガ入ル。」〕

（4）

嘆きの場所の門を開けよ！
人間の魂に思いをかける

栄光の王が今ここに来た、
ここにある門という門を打ち破るために。
その中にいる悪魔たち、
地獄の門のかんぬきを外せ。
人類を解放する、
悲痛から救うのだ。

（5）

ベリアル　ああ、ああ、なんたることだ――
お前の命令に屈服しなくてはならないのだ！
お前が神だということが今、判った。
お前については大きな疑いを持っていた。
お前に対抗して起立するものはなにもない。
すべてのものがお前の手に従う。
天国と地獄、海も陸も、
すべてものがお前に向かって腰をかがめ、礼を尽くす。

（6）

キリストの霊魂　わたしには向かってもむだというもの！

抵抗するのも、じっとして動かないのも。
地獄の獄舎は長く持たない、
栄光の王にいくら対抗しても。
わたしは黒い扉を打ち倒す。
これで今はもう、入り込む光りを受けて、わたしの美しい友たちの見分けがついた。
名簿に載った順番に連れだそう、
これまで入れられていた煉獄から。

第三十四番演目　埋葬

（1）

百人隊長　目の前で繰り広げられるこの光景を見て、今やはっきりわかった――
神の愛しいみ子が木の上に釘付けにされているのだ。
次々に起こっているこの不思議な現われが確かな証拠だ、
アノ方ハ神ノミ子デアッタ。

騎士二　あの方が神のみ子そのものであったと考えます。
そうであったので、あの方が不思議な業をされたのだと思います。
こんなに大地がひどく揺れているので、わたしには恐ろしい。
霧が出てきて、嵐になって、不思議にもあたりは真っ暗になってきました。

（2）

騎士三　あのような不思議な業は地上の者は見せられたことがない。
さっきまですっかり晴れていた空が真っ暗だ。
地の揺れはひどく、雲は薄暗くなってきた。
これらの天変地異はあの方が比類のない主であることの現われだ。

百人隊長　あの方の父親は数ある帝国のうちの比類なき王だ。
この世の主であり、高き天の王でもある。
それにもかかわらず、すべての罪からわれらを引き上げることで危険から救い、
われらすべてのために、愛しい息子を死なせたのだ。

（3）

ニコデモ　ああ、ああ、これはなんという光景だ――、
喜びの主であり王である方のこんな有り様を目にするなんて！
一度も罪を犯さず、間違いをしでかしたこともない方が、

十字架上にあのように釘付けにされるとは！
ああ、ユダヤ人たち、なんということをしでかしたのだ！
ああ、邪悪な知恵者たちめ、何を考えてのことか！
なぜ、打ちのめし、このように殴りつけ、
神に恵まれた血という血を流させたのか？

（4）

百人隊長　ああ、今こそ、本当に巧く言葉にできる――
この方は神ご自身のみ子であった、と。
この方が神であり人間であることが判った、
この世でなされた仕事によって。

（5）

あのような仕事ができたのは人間ではなく神様だったからだ――
女から産まれた者などではない。
あの方があんなにも偉大な聖職者だったからだ。
そうではないと否定されたにもかかわらず、仕事は人間の能力を超えていた。

（6）

あえて言おう、あの方の掟は本物だった、

左百八十六

あちこちでわれらに教えられた。
それゆえ、皆さん、回心し、
犯している間違いを改めるようにお勧めします。

（7）

アリマタヤのヨセフ　おお、この十字架上で亡くなられた善い主のイエス様、
わたしを憐れみ、わたしの罪をお許しください。
善意を込めて、あなたを拝みます、
天上の喜びに恵まれますように。

（8）

これからピラト様の所へ行って、
主イエス様のご遺体がほしいと願い出よう。
ご遺体を直ぐにお埋めするのだ、
まだ造って間もないわたしの墓へ。

（9）

万歳、玉座におられるピラト様、
万歳、ユダヤ人がそうだと呼ばわる最高法院判事様、
万歳、ご機嫌伺いのご挨拶をいたします。

運に恵まれていれば、の話ですが、骨を一本お願いしたいのです。

(10)

イエスの遺体を埋めるのをお許し願いたい、
人の目から見えなくするためです。
なぜなら、明日はわたしたちの休日となります。
すると、請合います、埋める人が誰もいないことになるのです。

(11)

しかも、いつまでもそこに吊るしておきますと、
もう見飽きた、と言う人も出てきましょう。
ユダヤ人たちは言い出しましょう、「とても悪いことだ――
あなた様のご尊厳にもかかわるし、ご利益にもならないのだから」と。

(12)

ピラト　バラマシヤのヨセフ、あなたの言い分を認めよう、
イエスの遺体を思いどおりにしなさい。
だが、イエスが本当に死んでいるかどうかを先ず最初に確かめたい、
判決は死刑と下されのだから。

(13)

百八十七

1070　1075

騎士団よ、お前たちに命じる、
バラマタヤのヨセフと一緒に、急いで行って、
良く確かめよ、
イエスが死んでいるのは確かかどうか。

(14)

この命令を必ずまっとうするように気を付けよ、
この言葉だけを胸にしまって、
ヨセフの思いどおりにさせよ、
イエスについてしたいことを。

〔ここで、二人の騎士がピラトの前に一緒に進み出て言う。〕

(15)

騎士一　閣下、われらは全力を尽くし、
ヨセフとされこうべの丘へ行きます。
閣下の面前から出立し、
直ぐに真実を見つけ出します。

(16)

ヨセフ　ピラト様、あなた様の優しさに感謝します、

よくぞわたしの好き勝手を許してくれました。
わたしの住んでいる地域にあるものでしたらなんでも、
お求めになられれば、差し上げます。

（17）

ピラト　望む物はすべてあなたにあげよう。
イエスの死体を好きなようにしなさい、
穴だろうが墓だろうがどこへでも埋めなさい――
皆の前で、あなたにその権限をそのように認可する。

〔二人の騎士はヨセフとイエスの所へ行き、イエスの前に立つと、両手で顔を掴む。〕

（18）

騎士二　イエスはもう死んでいるので大丈夫だと思う。
骨を砕く必要はない。
死んでいる――どう思う、
歩きもしないし、口も利かないだろう？

（19）

騎士一　帰る前に確かめよう。
一つのことを思いついた――

左百八十七（1095）

1100

あそこに目の見えない騎士がいるので、行ってみる。
直ぐに事は済ませる。
〔ここで、目の見えないロンギウスの所へ行き、声を掛ける。〕

(20)

ごきげんよう、生まれが立派な騎士ロンギウス、
心からあなたにお願いしたいことがある、
急いでわたしと行動を共にして欲しい、
これはあなたの利益になることだ。

(21)

ロンギウス　ご命令に従って、あなたとご一緒しましょう、
どのような場所にわたしを置かれるつもりか。
なぜなら、あなたがわたしの友であると信じております。
わたしを導いてください、われらの安息日に間に合わせてくれるように。

(22)

騎士一　ご覧なさい、ロンギウス殿、ここに槍が一振りあります、
長くて、幅広で、切っ先は十二分に鋭い。
そこにあるので、素早く手に取ってください——

楽しい見世物がこれから始まるのだ。
〔ここで、ロンギウスは槍を油断なく構える。すると握り手に血がひたたり落ちてくる。
そして、偶然に目をぬぐう。〕

(23)

ロンギウス　おお、善い主よ、これはなんとしたことでしょう、
このように明るく輝くものは？
この三十年も目が見えませんでした。
それなのに、わたしの目が見えるのです、どのようになったのか判りません。
でも、いまここに吊るされているのは誰なのですか？
あの乙女の息子に違いありません。
しかも、どうして今、あそこにいるのか判っています、
ユダヤ人たちがこのような恥辱をあの方に与えたのだ。〔ひざまずく。〕

(24)

今が今、善き主よ、わたしを許してください、
こんなことをあなたにしてしまいました。
していることが何が何やら分からずにしてしまったのです。
ユダヤ人たちはわたしの無知をいいことに常軌を逸しさせたのです。

百八十八

1120　1125　1130

憐れみたまえ、憐れたまえ、憐れみたまえ、と泣きの涙で求めます。
〔ここで、ヨセフが二本の梯子を立てると、ニコデモは手を貸す。〕

(25)

ニコデモ　アリマタヤのヨセフさん、あなたが祝福されますように！
なぜなら、本当に善いことをしているからです。
お願いです、わたしにも手伝わせてください――
これであなたが受ける報いを分かち合えます。

(26)

ヨセフ　ニコデモさん、大歓迎だ、
どうか手伝ってくれるようにわたしからもお願いする。
あの方はわたしたちに必ず報いてくださる、
もしもわたしのお手伝いが許されるものなら。
〔ここで、ヨセフとニコデモは十字架からキリストを一つの梯子からもう一つの梯子に移す。それが終わると、ヨセフはキリストを聖母マリアの膝の上に横たえる。騎士たちを追いやると、ヨセフが言う。〕

(27)

ヨセフ　ご覧ください、善い母、真の母であるマリア様、

1135

1140

ここに、血と傷だらけのご子息がいます。
このお姿に心が痛みます。
引き取られる前に、どうぞ一度は接吻をなさいまし。

（28）

乙女マリア　ああ、神よ憐れみ給え、憐れみ給え、わたしの愛しい子よ！　左百八十八
お前の血だらけの顔に接吻しなくては。
顔には色がなく、真っ青だ。
多くの喜びをなくしてしまって寂しく思うことになるでしょう。
今までにこのようなことを口にする母親は一人もいなかった、
その子供が、このような大きな悲痛を抱えている――なにもかにも剥ぎ取られた！
そして、わたしの愛し子は間違いを一つも犯したことがなかった。
ああ、天の父よ、憐れみたまえ、み旨がそのようにありますように！

（29）

ヨセフ　マリア様、み子をわたしにお預けください、
墓に運んで行きます。

マリア　ヨセフよ、神の祝福をきっと受けられます、
なぜなら、このような善い行いしたのですから。

〔ここで、キリストが墓に横たえられる。〕

(30)

ヨセフ　この亜麻布を持ってきました――あなたにお渡ししましょう、
まっさらなうちにあなたを包むためにです。

ニコデモ　持ってきました香料がここにあります、
主イエスのご遺体のすべてに塗るためです。

(31)

ヨセフ　今はもう、イエス様は墓の中です、
いつかはわたし自身のために、と注文しておいた墓です。
主よ、どうぞあなたのためにお使いください。
わたしの報いがとても大きなものになると承知しています。

(32)

ニコデモ　さあ、この石をもとのように置きましょう、
これでイエス様はこの墓にいつまでもおられるでしょう。
そして、われらの方は直ぐに家路に向かいましょう。
もう日が暮れてしまったようです。
さようなら、ヨセフさん、お元気で。

1165　1160

もうこれ以上、この場にぐずぐずしないでおきましょう。
ヨセフ　全能の神があなたと共にいて、
天上の喜びへあなたをお連れするように！
（33）
マリア　さようなら、親切な貴公子たち、
いつまでも喜びのうちにおられますように！
終わりのない天国の喜びを
あなた方がきっとご覧になることが分かっています。
〔ここで、ヨセフとニコデモの二人は聖母マリアに挨拶をしてから、それぞれ別の道を行く。〕
〔ここに、「されこうべの丘への道行き、地獄への降下、埋葬」が終わり、「墓の見張り」へ続く。〕

1170　百八十九